

「救荒植物（災害時食糧備蓄となる植物）」栽培適地評価システムと森林資源をリアルタイムに公開する地域基盤情報システムの研究開発

代表：高知工科大学 高木方隆

（システム工学群・教授）

1. 研究目的

平成 22-23 年度の SCOPE により、地域植物資源のフィールド調査からデータ整理・蓄積さらに利活用を支援するプラットフォーム＝Lupines(Local Useful Plants with Intelligent Networks of Exploring Surface) を確立した。

本研究では、この Lupines を起点として、災害備蓄としての意味を持つ「救荒植物」の自生環境の評価、ならびに GIS を基盤とした栽培適地の選定の方法論を開発し、実際の栽培に役立てるとともに、地域社会の持続安定的な発展に資する新しい森林環境・植物資源評価 ICT ツールの確立を図る。

2. 研究開発の概要

3. 期待される研究成果及びその社会的意義

- ◆成果 1：GIS による森林環境・植物資源評価
- ◆成果 2：災害備蓄「救荒植物」の適地栽培



- ◆社会的意義：豊富な植物相や自然環境をユビキタスコンテンツとして資源化
→ 高知県が 21 世紀型持続発展社会のモデルとなる

平成 22-23 年度

平成 24 年度

